

【事例演習課題】2024 京都府障害者虐待防止権利擁護研修(事業所コース)

下記の演習事例を読んで、問いに答えてください。(非公開)を除く部分については、匿名化の上研修で引用する可能性があります。回答部分を1部コピー(原本1部、コピー1部)し、当日原本とあわせて2部持参ください(1部は提出していただきます)。

注意:この演習事例は研修前事前提出ではありません。

今回の事例は順(時系列)を追って説明しています。プロセス【1】～プロセス【3】において、それぞれ「気になったこと」をあげて、その「理由」をお答えいただきます。また今回の演習事例に対して、あなたならどう考え、どう対応するかもお答えいただきます。

なお登場する人物名、事業所名等は架空の人物名、事業所名です。

演習事例タイトル:『佐藤さんに糖尿病をきちんと理解してほしい』

○登場人物紹介

- ・佐藤さん・・・60歳男性、長年糖尿病を患っている。障害支援区分4。
社会福祉法人つながる福祉会に在籍。日中の活動は同法人の生活介護事業、暮らしは同法人のグループホームを利用している。
- ・職員 B(グループホーム)・・・佐藤さんのグループホームスタッフ
- ・職員 C(グループホーム)・・・佐藤さんのグループホームスタッフ
- ・管理者 D(グループホーム)・・・佐藤さんが利用しているグループホームの管理者
- ・職員 E(生活介護)・・・佐藤さんが利用している生活介護事業所の職員
- ・管理者 F(生活介護)・・・佐藤さんが利用している生活介護事業所の管理者

～事例概要～

プロセス【1】

5月、佐藤さんと同じグループホームの利用者が、職員 E(生活介護)に「昨日、佐藤さんの病気の話をお聞きしたいです。 職員 B(グループホーム)さんが、冷蔵庫に写真を貼らされた。また見に来て」と話しかけてきました。

それを聞いた職員 E(生活介護)がグループホームに確かめに行くと、冷蔵庫には「糖尿病が悪化するとこんな風になります」という患部の写真などとともに「隠れておやつを食べ続けていると恐ろしいことになります」という文言が添えられていました。冷蔵庫に貼った写真や文言を目にしたものの、みんなで病気のことを話しあったんだなと思いました。

プロセス【2】

5月も後半になったころ、職員 C(グループホーム)から「冷蔵庫に気持ち悪い写真が貼ってありますがいいのでしょうか？」と管理者 D(グループホーム)に相談がありました。

管理者 D(グループホーム)は、グループホーム職員の誰かが佐藤さんの病気を思っただけの行動だと思ったので、誰が掲示したのかは確認せず、その後もしばらく写真は貼られていました。

しかし管理者 D(グループホーム)は「やっぱりやりすぎかもしれない」、「グループホームの会議でもどんな経緯だったのか聞いてみよう」と考え、近いうちに写真をはがすこととしました。

プロセス【3】

6月に入り、職員 E(生活介護)はグループホームの冷蔵庫だけでなく、共有のトイレや佐藤さんの居室内にも同じような写真が貼られていることに気づき、管理者 F(生活介護)に報告をしました。

管理者 F(生活介護)は、これは重大なことだと思い、すぐに理事長に報告をしました。

翌日、理事長は管理者 D(グループホーム)に事実確認をおこない、現物を見てこれは《虐待の疑い》があると判断し、虐待防止センターへ通報しました。

【その後の対応】

すぐに、理事長、管理者 D(グループホーム)が同席して、写真を掲示したであろう、職員 B(グループホーム)に、思いやりきさつについて確認をしました。またグループホーム職員全員に集まってもらい、今回のことについて話し合いの場を持つこととしました。